

ワクワク通信

ガスも電気もリフォームも水道も!!

量販店の価格で、専門店のサービス

社長エッセイ

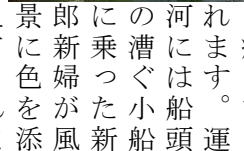
「晩秋の山陽紀行」

11月後半、研修で岡山に行つて参りました。多分この地を訪れるのは高校の修学旅行以来かと思えます。山間に位置する岡山空港に降り立ち、昼食の為訪れた「最上稲荷」(日本三大稲荷と言われている)。その参道が昭和30年代から時の止まった様な風景で：その後吉備の国分寺の五重塔を横目に、時代感覚が麻痺したかのような気分です。初日はスタート。

それから瀬戸内海を渡り香川県坂出の瀬戸大橋記念館に立ち寄りしました。流石に下から見るとそれは美しくも有り又、圧巻な構造物でもありました。ここでは瀬戸大橋の完成までの生い立ちや、構造的なもの、費用も含め(主要部は1億円/m)掛かっている等の苦労話を聞きわ

ずか2時間で復路瀬戸内の夕陽を眺めながら岡山に戻り、その日は市内で宿泊。

翌日の朝は散歩方々後楽園へ。良い天気の中、よく整備された庭園の紅味を帯びた木々や池の佇まい、更には岡山城を借景に眺め



ながら池田氏の大名庭園を満喫致しました。(遅ればせながらこれで日本三名園制覇です)後は最後の立寄り地で、一番楽しみにしていた倉敷です。こ

も記憶が薄らぐ位の昔に訪問してありますが、何と云っても幕府直轄地であった江戸情緒溢れる美観地区の散策は心を癒してくれます。運河には船頭の漕ぐ小船に乗った新郎新婦が風景に色を添えてくれます。又、アイビースタキアでは独特の赤煉瓦と鶯のコントラストが異国情緒を醸し出してくれま

ふるさと紀行

「石岡市柿岡(旧八郷町)」

柿岡の起こりは、常陸国守護八田知家の十男小田時知(時家)がこの地に住んで、柿岡氏を名乗ったことに始まる。その際、建久3年(1192年)に柿岡城が時知によって築かれた。尚柿岡城は現在の柿岡小学校のある高台に築かれ、柿岡小学校近くには土塁が残り、その南側に空堀が残っている。

その後、柿岡の歴史の大きな流れは後述のようになっていく。戦国時代末期には柿岡氏は衰退し、武蔵国岩槻城主太田資正の次男梶原政景の居城となったが、永禄12(1580年)に佐竹氏は小田氏治の小田城を攻め落とし、政景が小田城へ移った為、真壁房幹が城主となった。その真壁氏も文禄4年(1595年)に大島城へ移り、長倉城主長倉義興が城主となるが慶長5年(1600年)義興が没すると国分盛重が城主となる。しかし、慶長7年(1602年)佐竹義宣は出羽国久保田に転封となり国分氏も出羽へ移った。

慶長19年(1614年)立花宗茂の弟直次が五千石で入封、元和7年(1621年)種次の時、筑後国三池に転封。元和9年(1623年)稲葉正勝が五千石で入封し、寛永9年(1632年)相模国小田原に転封した。その後は江戸幕

府の直轄領「天領」となった。それらの歴史の中で、柿岡藩の成立は、寛永元年(1624年)常陸国新治郡柿岡をはじめ、上野や下野において500石の知行を領していた稲葉正勝が、常陸国真壁郡に500石を増増されて1万石の大名となり、柿岡藩が立藩した。稲葉正勝という人物は、江戸時代初期の大名・老中である。幼名は千熊で、通称は宇右衛門と呼ばれていた。そして、小早川秀秋に仕えた家老・稲葉正成の次男として生まれ、母は大河ドラマでもおなじみ、戦国時代の武将の斎藤利三の娘、春日局である。正勝自身も徳川家光に仕えていたことから加増を受けたのである。また、常陸柿岡藩主の他、下野真岡藩2代藩主、相模小田原藩初代藩主を勤めた。正成が寛永5年(1628年)に死去すると、正勝は家督と父の所領であった下野国真岡藩を継ぐこととなり真岡に移ったため、柿岡藩は廃藩となり、その所領は真岡藩に組み込まれた。



現在の柿岡城跡の様

芸術に触れるアトリエ

先日、当社のお客様でいらっしゃる陶芸家の先生のアトリエにご自宅を訪問させて頂きました。渡辺兼次郎先生の「泰山窯」というアトリエです。

早速アトリエにて先生の作品を拝見させて頂きました。

それらの殆どはとても美しく、綺麗で静観なものでした。決して派手ではありませんが、心の落ち着くような優しい色彩の作品で我々の日常の生活の中に溶け込んでいくことがなんなら難しいことではないことを感じさせるようなお皿や壺が並んでいました。よくよく作品達を眺めていると、それらにひとつ共通点があることに気がつきました。殆どすべての作品に花の絵があるのです。さらによく見るとお皿に描かれているその花はやはり殆どす



べてが菜の花でした。きつとそ
の菜の花が先生の焼いたお皿
や壺に懐かしさや暖かさ、そし
て日常に溶け込んでいく優し
さを与えているのだと感じま
した。

作品を一通り見学させて頂
いた後、先生のお話を伺いまし
た。先生は中学生の頃には読書
を好まれて、その中でもお釈迦
様の伝記に惹かれたそうです。

そしてその後、武者小路実篤氏
の「若き日の思い出」という小
説と出会い、さらに色々読み進
めていく中で武者小路実篤氏
の始めた「新しい村」という村
に入村され、文学、音楽、スポ
ーツ及び映画などに親しまれ
たそうです。そして武者小路実
篤氏から窯を寄贈したことが
きっかけで陶芸の道に進まれ
たとのことでした。その後、新
しき村を離れ陶芸活動に専念
されました。

そのお話を聞いて、改めて先
生のアトリエを眺めていると、
並んでいる作品は色々な芸術
に囲まれ、親しんできた先生だ
からこそ、表現出来る形や色
遣いなのであることが分かり
ました。

きつと皆さんも見て頂けれ
ばとても心に残る作品ばかり
だと思えます。「芸術の秋」は
アツという間に過ぎてしまっ
ましたが、わたしの伺った時期
はまだ、本格的な紅葉は始まっ



てもいない時期でした。

秋は何かもの悲しい雰囲気
する時期だと思っていました
が、「この日の出会いで心に充実
感と穏やかなエネルギーを充
てん出来たと思っています。

毎日、仕事仕事で追われがち
な毎日です。もしかしたら皆さ
んもそんな毎日悪くはないよ
うか。そんな毎日悪くはない
ですが心にいつも余裕を持つ
ためにも今後は、何か芸術性の
高いなにかに触れて生活して
みたいと思っています。

わたしのような不器用な人
間では陶芸は向かないと思
います。でも、何かを作ること
だけが芸術に触れることでは
なく、映画や音楽や読書をする
ことも芸術とのつながりだと
思います。

忙しく仕事に偏りがちな方
にも是非芸術にふれることを
オススメです。

大自然に魅せられて、多くの
陶芸家が石岡市内に窯を開き、
個性的で創造性豊かなものづ
くりをしています。

ゆったりとした時間の流れ
や静寂の中で生み出された作
品は味わいの深いものばかり
です。

毎年、6月には、バラまつ
りが行われる茨城県フラワー
パークを会場にして「陶器まつ
り」が開催され、多くの陶器フ
アンで賑わいます。

お問い合わせ先

〒315-0146

石岡市菅浦沢 336

TEL 0299-42-3446

定休日

不定休

見学

予約制



※年末年始のお知らせ
12月31日(水)～
1月4日(日)まで

誠に勝手ながら、右記日程は年
末年始休業日とさせて頂いただき
ます。ご了承下さい。

その他、緊急の場合は24時間
対応いたします。弊社はいつでも
緊急出勤体制でお客様を守りま
す。

※富士の湧水

いつもご利用頂き、誠にありが
とうございます。

12月31日(水)～1月5日(月)
に、配達をご希望のお客様は12月
30日(火)の午前中までにご注文く
ださい。

また、12月30日(火)の午後を受
付の場合、最短で1月6日(火)の
配達になります。

早いもので、今年も残すところ
わずかとなりました。茨石商
事は皆様に支えられ、よりよい
サービスと情報提供をと励ん
で参りました。来年もさらなる
サービスの向上に徹してゆき
たいと思っておりますので、何
卒変わらぬご愛顧の程、宜しく
お願い申し上げます。

皆様、どうぞ良いお年をお迎
え下さい。

